

一三 謠 ひもの

一 朗 詠

祝

嘉辰令月歡無極、萬歲千秋樂未央、
長生殿裏春秋富、不老門前日月遲、

謝 偃

保 胤

讀人知らず

わが君は千代に八千代にさゞれ石のいはほとなりて
苔のむすまで

早 春

氣霽風梳新柳髮、水消浪洗舊苔鬚、

都 良 香

志貴皇子

いはそぐ垂氷の上の早蕨の萌えいつる春になり
けるかな

祝

嘉辰令月歡無極万歳千林樂未央

謝偏

長生殿裏春秋富不老門前日月遲

保胤

わさふはちまうやまにそい
しはとまりてふのむすそ

倭漢朗詠集抄寫

山家

紀齊名

山路日暮滿耳者樵歌牧笛之聲 澗戸鳥歸遮眼者竹煙

松霧之色。

讀人知らず

山里は物のさびしきことこそあれ世のうきよりは住
みよかりけり

二 今 様

萬劫年ふる

萬劫年ふる龜山の

下の泉のふかければ、

苔むす岩屋に松生ひて、

梢に鶴こそ遊ぶなれ。

一天四海

治り靡く時なれや、

一天四海のうちのみか、

人の國まで日の本の

唐土が原もこのところ。